

ハリス理化学館同志社ギャラリー第8回企画展
奥村多喜衛生誕150年、同志社・ハワイ交流80年

ハワイに高知城をたてた男 奥村多喜衛

同志社・ハワイ交流前史

2015年12月8日〔火〕～2016年2月10日〔水〕

入場無料

会場：ハリス理化学館同志社ギャラリー2階企画展示室、
1階常設展示室「同志社の今」(今出川キャンパス)

開館時間：10時～17時

休館日：月曜日、12月23日、25日、
28日～2016年1月5日

共催：ハワイに高知城をたてた男 奥村多喜衛展実行委員会、
同志社史資料センター

後援：高知県、高知県教育委員会、高知市、
高知市教育委員会、高知城管理事務所

協力：マキキ聖城キリスト教会、高知市立自由民権記念館、
奥村多喜衛協会、全国同信伝道会、
高知県立高知追手前高等学校、土佐塾中学・高等学校、
清和女子中・高等学校、同志社校友会高知県支部、
同志社同窓会高知支部、同志社大学図書館

高知家



ハワイに高知城をたてた男 奥村多喜衛

自由民権運動家から牧師へ転身

奥村多喜衛(1865-1951年)は日本ではあまり知られた存在ではありません。奥村の活動の舞台はハワイでした。1865年(慶応元)土佐藩士奥村又十郎の長男として生を受けた奥村は、その後高知で青年期を過ごします。植木枝盛の言葉「自由ハ土佐ノ山間ヨリ発シタリ」が象徴するように、奥村は多感な時期に自由民権運動の影響を受け、自身も活動しました。この時期に彼は基督教とわずかな接点を持ちます。彼が本格的に基督教に接近するのは、20歳を迎えて大阪に出た後のことです。1888年(明治21)、23歳の時、大阪教会で同志社英学校第一期卒業生宮川経輝から洗礼を受けました。

大阪に出ていた奥村ですが、手を出した事業全てに失敗し、家計は火の車でした。そのようなおり、宮川の「天職を見出すために祈れ」という語りに従い見出した結論が「神に捧げる人生」でした。そして、奥村は1890年(明治23)同志社神学校に入学します。



1



2



3

ハワイの日本人・日系人社会を支えたサムライ牧師

在学中の奥村に転機が訪れました。1892年(明治25)、ハワイから一時帰国した岡部次郎牧師が同志社を訪問し、講演中に学生に対して「ハワイへ来ないか」と語りかけました。海外伝道を希望していた奥村はハワイでの伝道活動を決意し、1894年(明治27)同志社神学校卒業の2ヵ月後にはハワイに渡ります。奥村は初期のハワイ伝道に赴いた同志社出身者の1人でした。以来、永眠するまでの57年間を、7度の帰国を除きハワイの地で活動を続けました。

ハワイに渡った奥村の目に映ったのは、外国社会や現実の劣悪な環境に苦しむ日本人移民の姿でした。奥村は環境の改善に向け、移民の子どもたちのために、幼稚園、小学校、寄宿舎を設立しました。日米関係が悪化してくると、排日予防啓発運動を展開し、同時に、日系人リーダーを養成する研修会「日系市民会議」を主宰し、ハワイにおける日本人及び日系人社会の構築に大きく貢献しました。その最中、奥村は1904年(明治37)マキキ教会を組織し、その後1932年(昭和7)高知城の天守を模したマキキ聖城キリスト教会が完成しました。日本の文化と基督教が融合したこの教会は現在も多くのクリスチャンが集う、ハワイ最大の日系キリスト教教会です。

このように、奥村の歩みはハワイの日系人及び日系社会の歩みと軌を一にしています。その歩みを、マキキ聖城キリスト教会及び奥村多喜衛協会が所蔵する資料を通じて辿ります。



4

1. 奥村多喜衛旧蔵扇子 1945年 模写「マキキ聖城キリスト教会」栗田眞二作 2015年
2. 奥村多喜衛肖像写真 1890年代中ごろ
3. ガラス乾板写真「奥村家の人々」江戸時代末期
4. 蒔絵箱 近代

1,3~5...マキキ聖城キリスト教会蔵
2...栗田眞二氏蔵
※会期中、展示替えを行います。展示期間の記載のないものは全期間展示されます。



5

■公開講演会 聴講無料/事前申込不要

タイトル: 「ハワイの日本人・日系人社会と奥村多喜衛」

講師: 中川芙佐氏(奥村多喜衛協会会長、高知大学非常勤講師)
日時: 2016年1月30日[土] 13:00~14:30
会場: クラーク・チャペル(同志社大学今出川キャンパス)

■展示説明会 参加無料/事前申込不要

講師: 中川芙佐氏
日時: 2016年1月29日[金]・30日[土] 15:00~16:00
会場: ハリス理化学館同志社ギャラリー2階企画展示室



バス停留所 地下鉄出入口

信条は「移民社会だからこそ、広く社会に出て働く」